

金融庁金融審議会金融分科会第一部会（部会長 神田秀樹 東京大学法学部教授）では、12月24日に開催された同部会において、証券市場を活性化させ、直接金融の機能を強化する観点から、多くの提言を盛り込んだ「市場機能を中核とする金融システムに向けて」と題する報告書を取りまとめ、竹中金融担当大臣に答申した。

同部会では、証券市場を幅広い投資家の参加する真に厚みのあるものとし、市場機能を中核とした金融システムの中心を担うものとしていくため、昨年8月に金融庁より公表された「証券市場の改革促進プログラム」や同部会に設置されたワーキング・グループの報告を踏まえ、昨年12月16日に同部会報告書「証券市場の改革促進」を取りまとめた。

その後、同報告書による提言に基づき、証券仲介業制度の導入等を盛り込んだ証券取引法の改正等の制度整備が行われたが、同報告書においては、証券市場の改革促進のため、幅広い観点からさらに検討を続けていくこととされていた。

そこで、同部会は、本年9月に審議を再開し、証券市場の制度整備について引き続き検討を要する項目や新たに検討する項目について整理を行い、同部会に設置されたワーキングの報告を踏まえ、上記「市場機能を中核とする金融システムに向けて」を取りまとめた。

「市場機能を中核とする金融システムに向けて」においては、市場間競争の制度的枠組み、ディスクロージャー制度の整備、市場監視機能・体制の強化、投資サービスにおける投資家保護のあり方、投資教育のあり方及び銀行証券の連携強化といった事項が盛り込まれており、次期通常国会への法案提出や金融庁において所要の措置を講じることを提言している。

なお、不公正取引規制や新たな投資サービスへの対応といった中期的課題については、引き続き同部会において検討を続けることとされている。

上記報告書及びその要旨など、当日の同部会の資料は金融庁ウェブサイト（http://www.fsa.go.jp/singi/singi_kinyu/siryoku/kinyu/dai1/f-20031224_sir.html）において閲覧できる。